

## 2-6 福島県東部におけるラドン観測 (VII)

### Radon Observations in the Eastern part of Fukushima Prefecture (VIII)

東京大学 理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

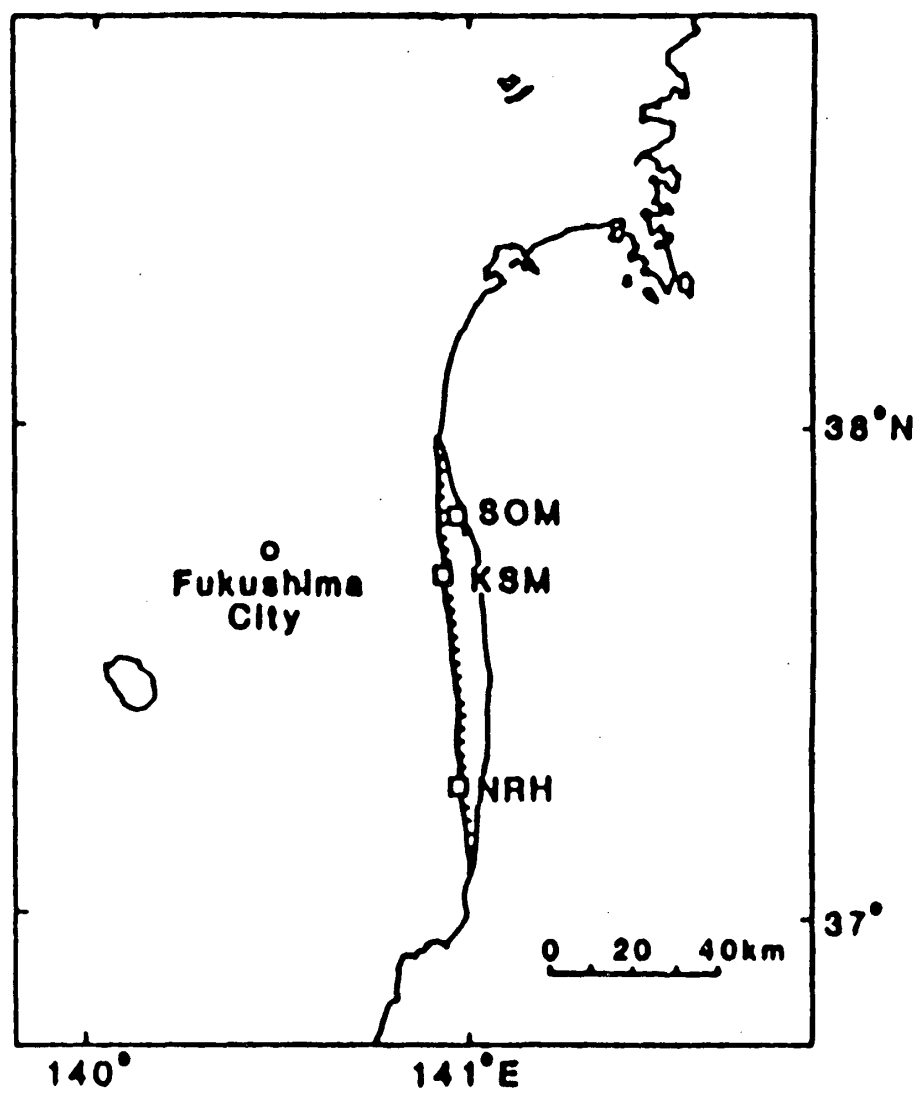
前報<sup>1)</sup>にひきつづき、福島県東部における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1988年11月～1989年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す相馬(SOM)、鹿島(KSM)、檜葉(NRH)の3地点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。なお、KSMは5月にラドン連続測定装置を新しい装置に交換した。

ラドン濃度の変動はKSMがいちばん大きく、夏期に高く、冬期に低い。これは他の地域にも見られる典型的な季節変動のパターンである。SOM, NRHではラドン濃度は比較的安定しており、その変動幅は小さい。また、5月以降KSMにときおり見られる1～2週間程度の周期の変動(たとえば8月2日から8月18日までのラドン濃度増加)は、温度制御の不具合によるものである。

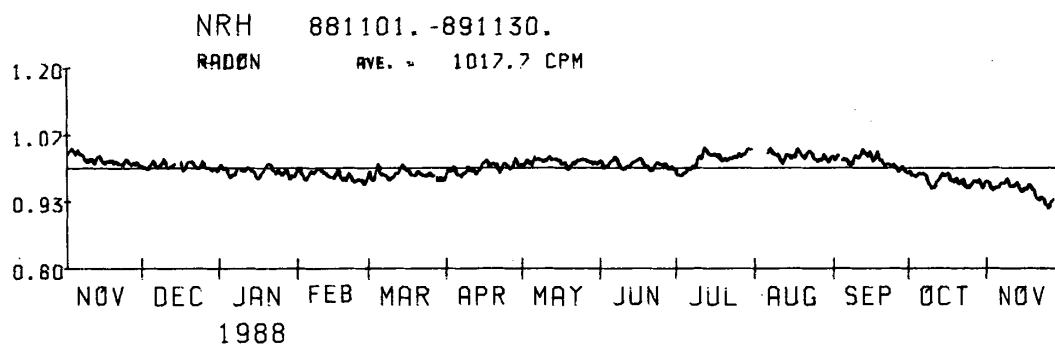
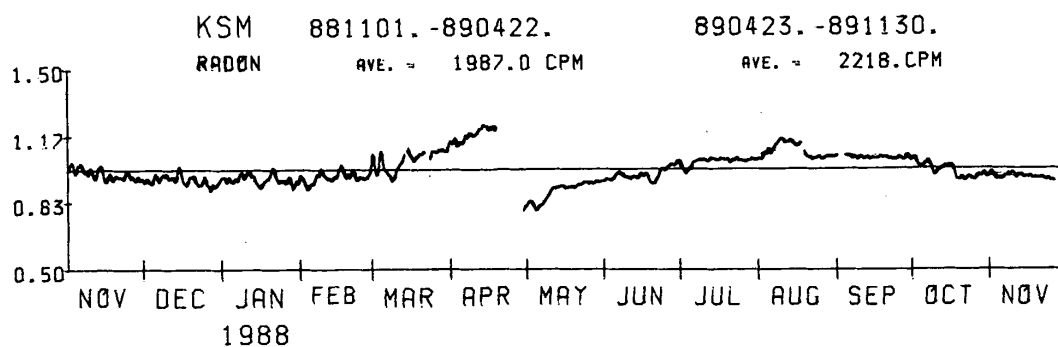
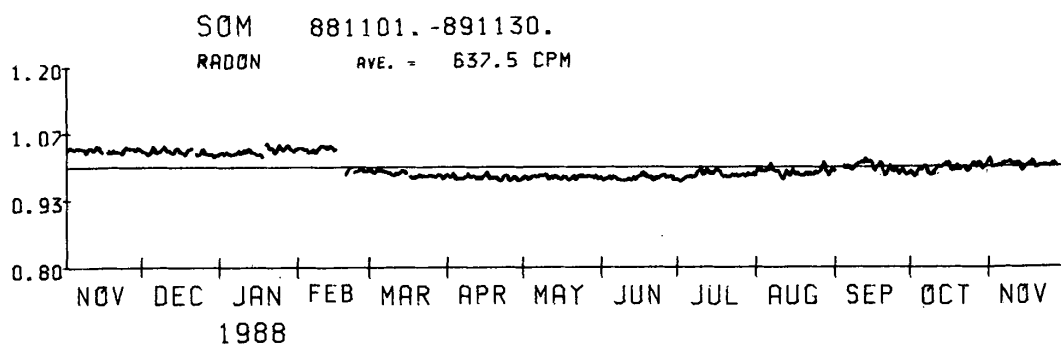
#### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：福島県東部におけるラドン観測 (VI), 連絡会報, 41 (1989), 71-76.



第1図 福島県東部の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Fukushima Prefecture (SOM: Soma, KSM: Kashima and NRH: Naraha).



第2図 SOM (相馬), KSM (鹿島), NRH (楡葉) における地下水中のラドン濃度の変化 (1988年11月~1989年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SOM (Soma), KSM (Kashima) and NRH (Naraha) (November 1988 - November 1989).